



H30スローガン
「協働」



平成30年7月17日(火)
発行所: 中部教育事務所



日本の
ひなた
宮崎県

「新たな研修 外国語教育セミナー」 ～先生方の不安、負担の解消を目指して～

外国語教育セミナー

先日、県教育研修センターを会場に各小学校の中学年、
高学年の先生方が参加して外国語教育セミナーを実施しま
した。内容は以下のとおりです。

1 説明「今後の外国語活動について」

2 講義・演習Ⅰ

「中(高)学年における単元を通した指導の在り方」

3 講義・演習Ⅱ

「中(高)学年における1単位時間の指導の実際」

4 ワークショップ(授業づくり研修)

本号では、セミナーの内容をポイントに絞ってご紹介します。

2 講義・演習Ⅰ

単元を通した指導の在り方

ポイント:ゴールを意識した授業を考える

- 1 単元の最後に何ができるようになるかのゴールイメージをもつこと。
- 2 ゴールイメージに向けて、どのような内容を扱っていくのか、単元のゴールイメージから授業を組み立てていく。

「あれもこれも」から「あれかこれ」
→単元構成を意識した一単位時
間の授業を考える

3 講義・演習Ⅱ

一単位時間の指導の実際

- 単元構成を意識した一単位時間の授業の実際では新教材の活動を使いながら、具体的な説明を交えて模擬授業を行いました。



○ 実際に新教材を活用した授業を見ることができて、とても参考になりました。

1 説明 今後の外国語活動について

○ 移行期間中の評価の観点

移行期間中の評価の観点は、現行の学習指導要領の観点で行う。

- ◇「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」
- ◇「外国語への慣れ親しみ」
- ◇「言語や文化に関する気付き」

の3観点で評価する。

○ 指導者は、コミュニケーションのモデル

オールイングリッシュである必要はない。分かりやすい単語をシンプルに使うとよい！ ↓例

Did you finish?



finish?

○ 中学年における指導要録の取扱い

総合所見及び指導上参考となる諸事項を記録する欄に、外国語活動の学習に関する所見を文章で記述する。

数値による評価は行わず、評定も行わない。高学年については引き続き現行どおりの扱いとする。

4 ワークショップ (授業づくり研修)

- グループでタブレットを使い、新教材の内容を確認しながら単元の第1時の学習指導案を作成しました。



○ ゴールイメージをしっかりとって、授業を組み立てることがとても参考になった。実際に学習指導案を作ってみて授業の流れや具体的な活動例など学ぶことができました。